

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
金沢ゆとり学園		令和8年 9月 1日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が療育室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		療育室①フローリング+ジョイントマット、②和室、③机のある部屋と3つの部屋に分かれており用途によって使い分けができるよう工夫している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		月1回以上、各職種ごとでミーティングをひらき支援の振り返りや課題を整理している。また話をした内容を月初めに「部門会」へもってきてもらい、施設内全体が情報を共有できる仕組みを作っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		今年の3月に法人が変わり、現在検討中のため現段階では第三者による外部評価は実施していない状況となっている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		毎年、5月に法人内の職員が参加できる「施設内研修」を行っている。途中入職の職員も入職時に必ず研修時間を設けている。各種委員会メンバーが中心となり、座学や実地研修を組み立て実施することもある。外部研修に関しては希望者が参加できるようにいろいろな方面の研修案内を情報共有している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		金沢ゆとり学園のHPと保護者のみなさまが確認できるアプリ内の「活動記録」にて公開している。内容の変更時はタイムリーに更新するよう心がけている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、「個別支援計画」を作成しているか。	○			
	13	「個別支援計画」を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	「個別支援計画」が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16	「個別支援計画」には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		保育士・児童指導員を中心にミーティングをひらき、季節の変化や行事遊びを楽しむことができる活動を取り入れることができるよう努めている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			

バ	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ「個別支援計画」を作成し、支援が行われているか。	○		その日の体調や気分なども確認しながら活動に参加することも含め、選択できるよう関わっている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、「個別支援計画」の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		1人ひとりの課題や検討事項などに合わせ、必要な機関と迅速に丁寧に連携を図れるよう意識している。法人内には医療的ケア児等コーディネーターが2名在籍(金沢市の委託1名、金沢市・野々市市の委託1名)しており、ご希望がある場合は学校とご家族、病院とご家族…などコーディネートを実施している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		学校との連携や情報共有は対面や書面にて共有事項が抜けがないよう意識している。また、他の児童発達支援や放課後等デイサービスの事業所さんとも連携を図り一貫性のある関わりが意識できるよう努めている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	該当なし (対象者がいないため)			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		中核的機能を担うセンターが開催する研修に参加したり、重症心身障害児や肢体不自由児の施設が多く集まる研修に参加し交流や情報交換を行っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		児童館へ外出(おでかけ)する機会はあるが、感染拡大防止の観点から「交流」へは進められていない現状がある。希望も確認しつつ慎重に、前向きに機会を提供できるよう法人内や事業所内で話をしていきたいと考えている。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	△			市の委託として動かさせていただいている職員については医療的ケア児等コーディネーターの連絡会議や市町の医ケア部会などに参加する機会は少しずつ増えてきている。今後も保護者のみなさまのご意見や地域課題などを話ができる場へ出席できるよう努めていきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		現状、ご家族向けの研修などは行っていないが、保護者交流会を年に2-3回程度開催し新しい情報やほしい情報が共有・交換できる場を設けている。 参加が難しい保護者の方には活動記録やSNSにて情報が共有できるよう意識している。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		必要時は相談支援専門員も含めたチームで関わりができるよう体制を作っている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		保護者交流会やクリスマス会などを開催し普段なかなかゆっくりお話しができない家族同士が交流できる場を設けている。 実施前後のアンケートなども行いながら内容を検討、改善し交流会がより良い時間となるよう今後も考えていきたいと思っている。	きょうだい児の交流に関しては単独開催は行っておらず、クリスマス会などの開催が中心となっている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		地域の夏祭りや避難訓練などにも積極的に参加したいと考えてはいるが、日曜日開催が基本となっており、なかなか実施できていない現状がある。(避難訓練に関しては新しい情報が得られることもあり、管理者は毎年参加している。参加後、職員に情報を共有している。)
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		利用前に必ず看護師が確認と聞き取りを行っている。利用後もケア内容の変更などについては看護師が内容を確認し書面と口頭で全職員に周知している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか。	○		個別支援計画と別に「身体拘束の同意書」を説明し署名捺印をいただいている。	